

平成 31 年度植物友の会活動記録

久保晴盛・高井敦雄

はじめに

植物友の会は、植物に興味を持つ一般から募集した人達の集まりで、植物公園を活動の場として植物愛好者が集い、植物・園芸に関する知識・技術の向上を図り、自然保護の心を育てることを目的に、昭和 54 年 10 月に設立された会である。

令和 2 年 1 月現在、会員数は個人会員が 107 (4) 人、家族会員が 14 組 28 人 (2)、企業等の賛助会員が 8 団体である。() 内は昨年度同月からの増減会員数、△は減。

活動

植物友の会では、年 6 回の例会、年 3 回の野外観察会、年 2 回の講習会、友の会作品展、会誌「はなの輪」の発行などを主な活動として行っている。また、園内ボランティア（友の会ボランティア）、部会活動（植物同好会）などは通年で活動している。

(1) 例会 (表 1)

2 ヶ月に 1 回の例会を展示資料館 2 階講堂で行っている。季節の園芸作業、植物に関する講話や園内の植物ガイドなどを職員が持ち回りで行った。例会の前には運営委員会を開催し、友の会の活動方針などを随時協議した。

表 1. 例会の内容

第 1 回	・園芸作業
5 月 19 日	クンシラン、ジャーマンアイリス
参加者 36 名	・植物同好会ロビー展の作品解説
第 2 回	・園芸作業
7 月 21 日	パオパブ、ブッドレア
中止	台風のため中止
第 3 回	・園芸作業 ・行事報告
9 月 15 日	色々なランの秋の作業 たねまきと苗づくり
第 4 回	・講話：種子に関するためになる話
11 月 17 日	・パオパブの開花 (ビデオ鑑賞) ・特別企画展解説
第 5 回	・園芸作業
1 月 12 日	サクラソウの育て方
参加者 33 名	食虫植物の植替え
第 6 回	・総会
3 月 8 日	・植物に関する講話 (予定)
中止	COVID-19 のため中止

(2) 講習会

植物クラフトや寄せ植えづくりなどを毎年 2 回開催している。第 1 回講習会は 6 月 8 日 (土) に「苔玉づくり講習会」と題して開催した。講師は林泰寛さん (はやし作園)。参加者は 10 名。家庭で簡単にできる苔玉の作り方を学び、コケ植物の観察を行った。外部講師を招聘するに当たっては、参加人数が少ないこと (昨年度の講習会の参加者は 2 人) が課題となっている。今回は、ハナショウブ & アジサイまつりのイベントと併催することで開催することができた。また、第 2 回の講習会「ミニ門松づくり」を 12 月に予定していたが、予定していた講師 (職員) が年度途中で異動したため、中止となった。来年度は一般対象の講習会との合同開催などを検討し、従前どおり複数回開催できるようにしたい。

なお、友の会会員がより頻繁に植物公園に来園できるきっかけを作るために、職員による植物うんちくガイド (季節の花さんぽの後継企画)、うらら池自然観察や植物公園生き物探訪などの園内観察会に参加できるようにしている。植物うんちくガイドについては、別項にまとめたのでそちらを参照されたい。

(3) 観察会 (表 2)

年 2 回春と秋に、植物の専門家を講師として迎え、県内外の山野の植物を観察している。また、平成 23 年度からは第 3 回野外観察会 (現地集合・解散) を開催している。今年度の第 1 回は三原市の中央森林公園 (三景園) の視察を行った。三景園は広島空港の開港にあわせて整備された日本庭園であり、同園の設計に携わられた立花宏二先生 (IWAD 環境福祉リハビリ専門学みどりの環境学科学科長) の解説を聞きながら園内を散策した。第 2 回の観察会は安芸太田町の龍頭峡で溪谷沿いの植物観察を行い、中坪孝之先生 (広島大学大学院広島大学統合生命科学研究所 教授) の案内でカエデの分類などを学習した。第 3 回の観察会は、3 月末に比治山公園と広島大学薬学部付属薬用植物園の見学を行う予定としていたが中止となった。

表2. 野外観察会の開催地と場所

第1回	・広島県立中央森林公園 (三原市)
6月16日	・同 三景園
参加者14名	講師：立花宏二 学科長
第2回	・龍頭峡 (山県郡安芸太田町)
11月15日	講師：中坪孝之 教授
参加者15名	

(4) 展示会

年1回秋に、会員が普段自宅で楽しんでいる鉢物(山草部会員等)や写真、クラフトなどを出品していただき、友の会作品展として開催している。今年度の会期は9月7日(土)～15日(日)の8日間であった。植物同好会を中心に出品した山野草(116点)、園内の四季を記録した写真(143枚)や絵手紙、枕屏風(花の刺繍)など(計16点)多彩な作品が出品された(出品者10名、出品点数261点)。なお、出品者が固定化しており、会員の負担が大きくなっていることから、来年度の友の会作品展は休止することとし、展示資料館ロビーなどで随時会員の作品を展示できる機会を設けることを検討している。

(5) 園内ボランティア(表3)

本年度より、管理ボランティアの名称を友の会ボランティアに改め、活動内容も植物公園の栽培管理補助を中心にする事とした。ボランティア立ち上げ時に戻った形となり、ここ数年続いてきた会員の自発的な活動としてのボランティアは休止することになった。定期活動日は変更せず、第1・第3火曜日に有志を募って通年で開催した。新しい形での立ち上げとなったこともあり、各回参加者が5名程度と少ない人数に留まっている。大温室やベゴニア温室周辺などの施肥や花の植え付けなどの植栽管理、屋外の樹木剪定、ハンギングバスケット作成やクリスマス飾る植物展の装飾など多岐にわたって園内の魅力向上に貢献いただいた。

表3. 平成31年度友の会ボランティア活動記録

活動月	活動内容	合計人数
4月	サクラソウ展、植栽管理(トサミズキの剪定ほか)、はなの輪発送	16
5月	植栽管理(ベゴニア・大温室) ハンギングバスケット作成	21
6月	植栽管理(ハギ園・バタフライガーデン) はなの輪発送	17
7月	植栽管理(ベゴニア・大温室)	10
8月	オオオニバス試乗体験会補助	0
9月	植栽管理(大温室) ハンギングバスケット作成	12
10月	クリスマス展飾付、はなの輪発送	10
11月	クリスマス展飾付、ハンギング作成	9
12月	植栽管理(ベゴニア)、シダ筆作り(試作)	5

(6) 会誌「はなの輪」の発行(表5)

各号300部ずつ発行した。今年度から、会誌の形態をA4版8ページ(観音開き)のリーフレットに移行し、あわせて、会員向けのニュースレターを例会毎に発行した。

また、植物公園の機関誌として、1500部を別途公民館等に配布し、植物公園ウェブページでも随時公開した。

表5. 会誌「はなの輪」の発行

平成31年4月	2019通巻159号(春～初夏号)
令和元年7月	2019通巻160号(夏号)
令和元年10月	2019通巻161号(秋号)
令和2年1月	2019通巻162号(冬～初春号)

(7) 部会

友の会部会活動は現在植物同好会(旧山草部会)の一部会のみである。本年度より、山草部会が植物同好会に名称を変更し、会費制を取りやめることとなった。部会の解散ではなく、当面は従前の通り活動することとなり、年2回の野外観察会や5月の例会に併せて開催する展示資料館ロビー展示と9月の植物友の会作品展の2展示会、2ヶ月に1回友の会例会前の午前中に部会例会を開いた。また、部会員が栽培・育成した苗物の交換も行った。5月のロビー展示期間の2日間は、入口に臨時売店を設け、販売も行った。部会活動は事務局の運営下ではなく自主的に運営されている。

まとめ

植物友の会は今年で発足40年を迎えた。この間に多くの会員が植物公園に集い、当初の目的は達成できたと考えている。しかし近年は、会員数の減少が続いており、活動内容も固定化しているのが実態である。会員の年齢層も年々高齢化しており、例会などの活動の参加者も少なくなっている。今年度は既存の活動内容を整理し、持続可能な植物友の会の在り方の検討を行った。新規の会員を増やし、会を活性化することが急務であり、来年度は園としてできる様々な施策を講じていきたいと考えている。また、公民館等への広報を積極的に行い、会員数の増加に繋げていきたい。



写真1. 第3回例会 「たねまぎと苗づくり」



写真4. 第2回野外観察会 龍頭峽



写真2. 苔玉づくり講習会



写真5. 友の会ボランティア トサミズキの剪定



写真3. 第1回野外観察会 「三景園」



写真6. 友の会ボランティア クリスマス展装飾